

JAFAME ニュース

NO.20-1 October 30th, 2016

第20回アジア市場経済学会全国研究大会が、6月25,26日に、東亜大学で開催されました。大会実行委員長である古川智会員、大会実行委員の瀧田修一会員、学会事務局の葉山幸嗣会員を始め、大会関係者の皆様のご尽力のお蔭で、充実した各プログラムが成功裏に実施されました。また、本大会の初日には一般財団法人山口経済研究所の宗近孝憲氏による特別講演も実施され、山口県を中心とした地方創生とアジア諸国との国際交流等についても活発に討論がなされたという点でも、特筆すべき大会であったと言えます。本会報冒頭におきましてまず、大会実行委員・事務局の先生方並びに関係スタッフの方々のご尽力に心より御礼申し上げます。

今後とも本学会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本号の主な内容

- I. 全国研究大会報告
- II. 学会の運営に関する事項
- III. 2015年度海外視察研修報告
- IV. 入退会者一覧
- V. その他（部会情報等）

アジア市場経済学会
Japan Academy for Asian
Market Economies

〒195-8585 東京都町田市金井町 2160
和光大学経済経営学部経済学科
葉山幸嗣研究室内 アジア市場経済学会本部事務局
Tel: 044-989-7777 (内線 5404)
Mail: koyan@mvi.biglobe.ne.jp
HP : <http://www.jafame.jp/>

I. 全国研究大会報告

第20回全国研究大会 開催

場所：東亜大学

日程：2016年6月25日（土）・26日（日）

研究発表第1日 6月25日（土）会場：東亜大学2号館

【自由論題報告】10：00～12：10

第1分科会 <2号館4階2407教室> 座長：高橋 義仁（専修大学）

10：00～10：40

第1報告「日本企業によるBOPビジネスへの成功事例分析の一考察」

報告者：大島 英雄（元 放送大学/元法政大学/元 国士舘大学）

コメンテータ：小林 守（専修大学）

10：45～11：25

第2報告「中小企業の国際ビジネス支援に関する探索的分析」

報告者：曾我寛人（明治大学）

コメンテータ：園田 哲男（高千穂大学）

11：30～12：10

第3報告「TPP大筋合意とマレーシア・ベトナム国内の反応～現地報道、政府の影響調査分析、反対運動などからみえるもの～」

報告者：井出 文紀（近畿大学）

コメンテータ：古川 久継（財団法人 日本経済研究所）

第2分科会 <2号館4階2408教室> 座長：高橋 章（日本大学）

10：00～10：40

第1報告「中国における輸入越境～EC-B2C市場の諸問題及び対策に関する研究－新
税収政策の影響について～」

報告者：畢 重麗（広島修道大学）

コメンテータ：丸谷 雄一郎（東京経済大学）

10：45～11：25

第2報告「中国経済の構造変化と経済のサービス化」

報告者：陳 文挙（日本大学）

コメンテータ：松野 周治（立命館大学）

第3分科会 <2号館4階2414教室> 座長：村松 潤一（広島大学）

10：00～10：40

第1報告「日本製造企業の戦略的撤退～中国市場を中心に～」

報告者：三好 純矢（積水ハウス株式会社）

コメンテータ：藤岡 芳郎（大阪産業大学）

10：45～11：25

第2報告「味の素タイランド社における価値共創マーケティング戦略の一考察
～サービスのロジックの視点から～」

報告者：藤岡 芳郎（大阪産業大学）

コメンテータ：大藪 亮（岡山理科大学）

11：30～12：10

第3報告「インドネシアにおける自動車流通と販売金融」

報告者：石川 和男（専修大学）

コメンテータ：林田 秀樹（同志社大学）

【特別講演】13：10～14：10 <2号館2階2207大講義室>

「地方創生と海外市場」

講演者：宗近 孝憲（一般財団法人 山口経済研究所）

司 会：古川 智（東亜大学）

【統一論題報告】14：20～16：40 <2号館2階2207大講義室>

モデレータ：西口 清勝（立命館大学）

14：20～14：50

第1報告「AECがもたらす経済効果と課題～ベトナム経済への影響を事例として～」

報告者：グエン・ドゥック・ラップ（広島修道大学）

14：50～15：20

第2報告「ASEAN経済統合におけるカンボジア労働市場の課題～技能、知識、態度の観点から～」

報告者：ンガウ・ペンホイ（名古屋大学/王立ブノンペン大学）

15：20～15：50

第3報告「経済格差是正に向けてのミャンマーの取り組み」

報告者：西澤 信善（東亜大学）

15：50～16：40

パネルディスカッション

研究発表第2日 6月26日（日）会場：東亜大学2号館

【自由論題報告】午前の部 10：00～12：10

第1分科会 <2号館4階2407教室> 座長：河 知延（近畿大学）

10：00～10：40

第1報告「アジア拠点都市における産直市場の可能性～地産地消の視点による考察～」

報告者：村上 真理（九州国際大学）

コメンテータ：山口 隆久（岡山理科大学）

10：45～11：25

第2報告「アジア新興国におけるVAT（付加価値税）の導入・拡大への洞察」

報告者：佐々木 建洋（ヒューマンアカデミー）

コメンテータ：新本 寛之（広島修道大学）

11：30～12：10

第3報告「東アジア・東南アジアの付加価値輸出に関する考察～アジアの国際分業体制について～」

報告者：高橋 良平（岡山理科大学）

コメンテータ：村上 真理（九州国際大学）

第2分科会 <2号館4階2408教室> 座長：下野 寿子（北九州市立大学）

10：00～10：40

第1報告「フィリピンにおける物流インフラ整備の現状と課題～新大統領選出後のゆくえ～」

報告者：石川 雅啓（日本貿易振興機構）

コメンテータ：為廣 吉弘（愛知大学）

10：45～11：25

第2報告「フィリピンのCEBUに進出した韓国商工人に対する実態調査～規模及び満足度を中心に～」

報告者：金日植（光云大学（韓国））
コメンテータ：秋山憲治（神奈川大学）

11：30～12：10

第3報告「ハラル認証とフードビジネス」

報告者：関川靖（名古屋文理大学）
コメンテータ：山中高光（花園大学）

第3分科会<2号館4階2414教室> 座長：岩淵護（青森大学）

10：00～10：40

第1報告「アジアにおけるクロスボーダー金融の変化～銀行のグローバル活動は進むのか～」

報告者：川本明人（広島修道大学）
コメンテータ：高砂謙二（大阪経済法科大学）

10：45～11：25

第2報告「AEC・インドの連結性と日系企業の価値創造に関する一考察」

報告者：小森正彦（亜細亜大学）
コメンテータ：菊池一夫（明治大学）

11：30～12：10

第3報告「投資環境としてのスリランカの可能性と課題」

報告者：高橋宏幸（久留米大学）
コメンテータ：飯島高雄（近畿大学）

II. 学会の運営に関する事項

1. 2015年度 第5回理事会議事録

期 日：2016年5月14日（土）

時 間：14時～15時

場 所：専修大学（神田校舎）

出席理事・会計監事・顧問：高橋義仁，飯島高雄，葉山幸嗣，松尾仁，中井教雄，林田秀樹，古川久継，菊池一夫，小森正彦，大藪亮，瀧田修一，川本明人，岡本善裕，松江宏（委任状6通）

出席幹事（オブザーバー）：前田和実，大島英雄，小林守

日本学術会議担当：西澤信善

議題および審議・決定事項：

(1) 人事について、

小林守（専修大学）先生を東部部会担当幹事として、大島英雄（大島経営研究所）を全国研究大会担当幹事として、新たに任命することが議決された。

(2) 会則の変更について

会則第7条2「一般会員の会費を7000円」とすること、また、第14条4項について「但し、別途理事会において承認された場合は、役員につくことは妨げない。」ということ付記することが議決された。

(3) 次回全国大会について

瀧田委員より全国大会に準備状況について説明があった。全国大会時における理事会については、夕刻以降に開催される見込みであることが告知された。

(4) アジア市場経済学会 SIG 募集について

大藪委員より研究活動の活発化のため、新たな研究グループについて研究期間を2年間とし、各年について50000円を出すようにし、合計100000円とする案が提案され、議決された。また、研究グループの上限を当面2グループ程度にすることとなつ

た。

また、小林守幹事より、大学院生の研究活性につながるような状況にすることが望ましいことが提案された。

(5) 決算と予算について

予算案が示され、承認された。

(6) 国際交流員会より

飯島委員より、昨年度開催された海外視察について報告があった。2016年3月22日～3月26日中国河南省、開封市、河南大学、河南工程学院での詳細について報告された。

(7) 会員の入退会について

「IV. 入退会者一覧」を参照。

(8) 総務員会より

JAFAME ニュースの発行がなされたことが報告された。19号よりHP上での公開になっていることが報告された。また、次回のJAFAMEについても、早めの発行をする旨が報告された。

最新の名簿について、2016年度に発行する予定であることが報告された。

(9) 年報委員会より

瀧田委員より、19号の発行が遅れる旨が報告された。また、年報執筆要領について、全面的に改訂する旨であることが報告された。

(10) 東部部会より

この後、本日2016年5月14日に開催される。

(11) 東部部会より

2016年2月20日、3月5日に西部部会が開催された。

(12) 20周年記念行事委員会より

西澤先生より、東亜大学の全国大会において、20周年記念の予備的段階として、海外会員からの報告を予定していることが報告された。

(13) アジア市場経済学会 WG より

川本先生より、WGで各系の連絡会議がもたれたことが報告された。WGの計画については、全国研究大会で公表する予定であることが報告された。

(14) その他

年報について、電子ジャーナル化の問題について報告された。電子化のみにするのか、電子版と紙ベースの両方を出版するのか、次回理事会で検討することになった。

(15) 会員数について

正会員 197名 (院生会員 25名) 海外会員 45名 法人会員 2 合計 244名

2. 2015年度 第6回理事会議事録

期 日：2015年6月27日(土)

時 間：18:00～18:15

場 所：下関市民活動センター(大会議室)

出席理事・会計監事・顧問：高橋義仁、飯島高雄、葉山幸嗣、松尾仁、中井教雄、林田秀樹、古川久継、小森正彦、大藪亮、瀧田修一、川本明人、岡本善裕、松江宏、岩淵護、小林弘明、新本寛之(委任状5通)

出席幹事(オブザーバー)：大島英雄、小林守、園田哲男、関川靖、下野寿子、高橋宏幸、松野周治、石川幸一

日本学術会議担当：西澤信善、村松潤一

議題および審議・決定事項：

(1) 第21回全国研究大会開催校について

第 21 回全国研究大会開催校 和光大学
開催日 (案) 2017 年 7 月 1 日 (土)、2 日 (日)

(2) 会員総会議案書について

① 会長報告

a. SIG の拡充について (2015 年度事業報告)

研究期間を 2 年間として、各年 5 万円の研究補助を支給する (合計 10 万円)。
新規の SIG として一件が採択された。

b. アジア市場 WG について (2015 年度事業報告)

各 WG の進捗状況についての報告。村松先生よりアジア市場学について、体系的にまとめること、および今までの年報論文 (170 本程度) をまとめる方向 (各系に分けて) であることが報告された。2016 年度の部会において、何らかの報告する方針であることが示された。

c. 関連学会および諸機関との連携について (2015 年度事業報告)

東アジア地域研究会 (西部部会)、日本貿易学会 (東部部会) との合同部会開催がなされた。また、日本経済学会連合 (2016 年 5 月 31 日) において、第 2 回アカデミックフォーラムについて、本学会が協賛学会として参加することが報告された。

d. 会員の拡大 (2015 年度事業報告)

昨年度 1 年間で正会員は 1 名減少している。全体では 4 名増の 243 名 (2016 年 6 月 24 日現在) である。目標の 250 名には届いていないため、今年度も院生会員と海外会員の拡充に努める。修士課程の学生については、業績が少なくても、入会を認める方向であることが確認された。

e. 2016 年度事業計画

20 周年に向けて、岡本委員長を中心として記念冊子の準備を進めていく。小林先生より 20 周年記念誌の原案が示された。また、JAFAME のダイジェスト版なども掲載予定であることが示された。20 周年記念誌に掲載する内容は、東亜大学の全国研究大会までの内容とすることが確認された。また、6 月 25 日 (土) に、20 周年記念誌のために、記念の写真を撮影することが報告された。

また、国際シンポジウムに講師を招聘する予定であるので、予算について検討が必要であることが確認された。

f. 会則変更について

東西理事数の修正について、会則 13 条 1 項に「東西の改選理事の比率については、選挙が行われる直前の 3 月 31 日時点における東西の正会員比率によって理事会で決定するものとする。」を付記する。これに伴い役員選挙に関する内規 1 条は削除する。

② 総務委員会報告 (新本総務委員長より)

a. 2015 年度事業報告

JAFAME19-1、19-2 を発行し、HP 上で公開した。名簿の発行について 8 月上旬に発送するよう準備を進めた。

b. 2016 年度事業計画

JAFAME20-1、20-2 を発行する予定である。名簿については、できる限り最新の情報を載せる予定である。また、最新名簿の作成について、本部事務局と連携していく。

③ 研究委員会 (大藪研究委員長)

a. 2015 年度事業報告

第 19 回全国研究大会が青森大学で行われた。また、4 回の東西部会が開催された。

b. 2016 年度事業計画

本年度は東亜大学で第 20 回全国研究大会が開催される。また部会についても 4 回開催する予定である。SIG については各年 5 万円を研究費 (合計 20 万円) として支給することになった。来年度の全国研究大会は和光大学で開催予定である。

- ④ 年報委員会（瀧田年報委員長）
 - a. 2015 年度事業報告
年報第 19 号の発行が遅れている。19 号では 10 本程度が掲載される予定である。
 - b. 2016 年度事業計画
第 20 号の発行を予定している。査読のシステム、執筆要領の変更について改訂を計画している。年報の電子化について（J-STAGE）について検討をしている。
- ⑤ 国際交流委員会（飯島国際交流委員長）
 - a. 2015 年度事業報告
海外視察研修として中国河南省を訪問（3 月下旬）し、河南大学でシンポジウムを行った。また、アジア市場経済学会として、現地の学生に講義をおこなった。海外会員との交流が深まった研修となった。
また、学会案内に英語版と中国語版が HP に掲載され、海外会員に学会を説明する際に活用できるようにした。
 - b. 2016 年度事業計画
東南アジア（ミャンマー）を訪問することを計画している。海外会員について、日本国内の会員と共同研究できるようなことを考えている。
- ⑥ 2015 年度決算および 2016 年度予算
20 周年記念の 150 万円が計上される予定であるが、繰越金と同じ口座になっているので、20 周年記念誌が発行される年には繰越金が減少することが予想される。これに伴い、理事等への旅費については再考が必要である。
- (3) アジア市場経済学会年報の電子化について
J-STAGE への掲載が可能になっている為、年報の電子化について対応する必要がある。
- (4) 会員の入退会
「IV. 入退会者一覧」を参照。
- (5) その他
西澤先生を顧問に推薦する。（功績として、法人会員の創設、海外会員の獲得など）

3. 第 20 回会員総会議事録

期 日：2016 年 6 月 24 日（土）

時 間：17:05～18:00

場 所：東亜大学（山口県下関市）

議 題

(1) 2015 年度事業報告ならびに決算報告

① 会長報告

a. SIG (Special Interest Group) の拡充について

研究期間を 2 年間として、各年 5 万円の研究補助を支給する（合計 10 万円）。
新方式での新規 SIG として一件が採択された。（従来の研究補助額は研究期間 3 年間の期初に 5 万円の支給）

b. アジア市場経済学 WG について

村松先生よりアジア市場学について、2015 年度終了時点を締め切りとし今までの年報論文を体系的にまとめ、2016 年度に報告する方針であることが示された。

c. 関連学会および諸機関との連携について

東アジア地域研究会（西部部会）、日本貿易学会（東部部会）との合同部会開催が行われ、来年度も継続実施の予定となっている。他学会との連携で開催された合同部会の企画は研究委員会に所管を移行した。また、日本経済学会連合会議に出席した村松潤一先生より、2016 年 10 月 1 日の第 2 回アカデミックフォーラムには本学会が協賛学会として参加することが報告された。

d. 会員の拡大

昨年度1年間で全体では5名増の243名であるが、正会員は2名減少している(2016/6/24現在)。目標の250名には届いていないため、今年度も院生会員と海外会員の拡充に努める。修士課程の学生については、業績が発展途上であることが多いものの、今後の期待を踏まえた入会審査の方向としたいことが確認された。

e. 2016年度事業計画

柱は20周年記念行事を中心とする活動を中心とし、従来の各委員会の活動の充実を図るとともに20周年に向けた活動を進めていく。20周年記念誌の刊行は岡本委員長を中心として記念冊子の準備を進める。小林弘明先生からは20周年記念誌の原案、JAFAMEのダイジェスト版、20周年記念誌のための写真の準備などが報告された。また村松主査(前会長)を中心とするアジア市場経済学WGを通じての学術的支柱のさらなる充実を図っていく。また、20周年記念大会(第21回全国大会)は、国際シンポジウムとしてアジア諸国から講師を招聘する予定であるので、予算について検討が必要であることが確認された。これらの内容は、第20回全国研究大会までの内容を区切りとしてまとめることが確認された。

日本国内の科学技術情報関係の電子ジャーナル発行を支援するシステムであるJ-STAGEの利用の準備をさらに進めるとともに紙媒体の書籍との並行発行を継続するかどうかを検討する。

加えて、従来からの各委員会を中心とする活動のさらなる充実を行っていく。

f. 会則変更について(承認願)

第7条2について「一般会員の会費を7,000円」を付記する。

東西理事数の修正について、会則13条1項に「東西の改選理事の比率については、選挙が行われる直前の3月31日時点における東西の正会員比率によって理事会で決定するものとする。」を付記する。

第14条4会計監事の役員について「但し、別途理事会において承認された場合は、役員につくことは妨げない。」を付記する(これにより任期終了直後の会計監事の役員への就任が可能となる)。会員より会計監事が任命理事として就任することについての質問があった。事務局長より任命理事として扱う経緯の説明があった。

g. 運営委員会・理事会開催状況

- ・ 第1回理事会(2015年6月27日、青森大学)
- ・ 第2回理事会(2015年8月28日、専修大学)
- ・ 第3回理事会(2015年10月31日、専修大学)
- ・ 第4回理事会(2016年1月29日、同志社大学)
- ・ 第5回理事会(2016年5月14日、専修大学)
- ・ 第6回理事会(2016年6月24日、下関市民活動センター)

② 総務委員会報告

2015年度はJAFAME19-1、19-2を発行し、HP上で公開した。名簿の発行について8月上旬に発送するよう準備を進めた。

③ 研究委員会報告

a. 第19回全国研究大会について

第19回全国研究大会が2015年6月27日~28日の2日間、青森大学において開催された。統一論題のテーマは『アジア新興市場の多様性と可能性~ポストチャイナを睨んだ日本企業の新たな挑戦』であった。研究報告は、統一論題2本、自由論題17本、特別報告2本、研究プロジェクト報告2本の研究報告がなされ、各報告とも非常に活発な議論が展開された。初日には、坪健一氏(青森県観光国際戦略局観光企画課)を迎え、特別講演(テーマ「観光国際戦略の課題と展望:青森県における実践から」)を開催した。

b. 部会研究報告について

2015年度の部会研究報告を、東西部会として各1回、東アジア地域研究会との合同研究会として1回、日本貿易学会との合同研究会として1回、合計4回開催した。

- ・ 東部部会研究報告会:2016年5月14日 専修大学神田校舎

- ・ 西部部会研究報告会：2016年2月20日 広島修道大学
 - ・ アジア市場経済学会・東アジア地域研究会合同研究会：2016年3月5日 大阪産業大学梅田サテライトキャンパス
 - ・ アジア市場経済学会・日本貿易学会合同研究会：2015年10月31日 明治大学駿河台校舎
- c. 年報委員会報告
今年度年報の査読が進んでいる。
- d. 国際交流委員会報告
海外視察研修（中国・河南省）については、河南大学においてシンポジウムを開催したほか、河南大学と河南工程学院で学生向け講演を3月末に実施した。さらに多くの海外会員獲得を目指すため、学会案内（英語版・中国語版）を作成し、HPのプロフィールのページに掲載した。
- e. アジア市場経済学 WG 報告
領域別で検討を進めている。
- f. 20周年記念行事実行委員会報告
20周年記念誌の準備をとして、掲載内容の準備をおこなった。
- g. 日本経済学会連合評議員報告
日本経済学会連合会議出席した。
- (2) 2016年度事業計画および予算案
- ① 会長報告
- a. 研究活動
第21回全国研究大会を平成29年7月1日～2日の2日間、和光大学で開催する。また、東西部会、東西合同部会、他学会との合同研究会を実施する。また、アジアの研究機関との研究交流を一層深める。
- b. 20周年に向けた準備
20周年記念事業準備委員会、アジア市場経済学構築WGの活動を積極的に推進する。
- ② 総務委員会報告
2016年度はJAFAME20-1、20-2を発行する予定である。名簿についてはできる限り最新の情報を載せるために、最新名簿の作成について本部事務局と連携していく。
- ③ 研究委員会報告
- a. 第20回全国研究大会について
第20回全国研究大会を2016年6月25日（土）および26日（日）の両日、東亜大学において実施する。統一論題のテーマは『アジア地域経済統合と日本企業～巨大統合市場の誕生とその実態～』である。統一論題3本、自由論題17本が予定されている。また、本年度は、特別講演として、宗近孝憲氏（一般財団法人山口経済研究所）を迎え、「地方創生と海外市場」というタイトルでご講演いただく。
- b. 「部会研究会」について
「部会研究会」を、東部部会・西部部会として各1回、日本貿易学会や東アジア地域研究会との合同研究会を各1回、合計4回実施する予定である。
- c. 「アジア市場経済学会SIG（The Academic Special Interest Groups）」について
本年度も引き続き募集し、継続のSIGも含め学会員の研究支援を進めていく。本年度は新たに1件の申請がありこれを承認した。また、本年度より研究期間を2年とし5万円/年（新制度）の助成とする。
（参考）なお、継続中のSIG（旧制度）は以下の通りである。
- ・ 代表者：今村一真（茨城大学）、期間：2015年7月～2018年6月、「中国のヤクルト販売にみるサービス・プロセスの構築とサービス・プロバイダの実践」
 - ・ 代表者：川本明人（広島修道大学）、期間：2015年7月～2018年6月、「アジアにおける金融の現状と課題」
 - ・ 代表者：大島英雄（大島経営研究所）、期間：2015年3月～2017年6月、

「BOP ビジネス研究会」

d. 次回全国研究大会について

次回、第 21 回全国研究大会は、和光大学で開催の予定である。

④ 年報委員会報告

今年度全国大会後のスケジュールで刊行の見込みである（2015 年度分）。2016 年度分は年度中に刊行する。

⑤ 国際交流委員会報告

本年度も海外視察研修（予定候補地：ミャンマーを検討中）を実施する。さらに他委員会との協議の上、日本国内の会員と海外会員の共同研究や海外会員の在籍する研究機関との定期交流事業の計画・検討を行なう。

⑥ アジア市場経済学 WG 報告

2015 年度終了時点を締め切りとし今までの年報論文（170 本程度）を経済系、経営系、流通・マーケティング系に分け体系的にまとめ、2016 年度に報告する方針である。

⑦ 20 周年記念行事実行委員会報告

掲載内容の準備をすすめる。

⑧ 日本経済学会連合評議員報告

日本経済学会連合会議にて、2016 年 10 月 1 日の第 2 回アカデミックフォーラムでは協賛学会として参加する。

⑨ 予算案（資料 3）

会員より 2016 年度の全国大会補助費について質問があった。事務局長より全国大会担当校補助費を計上する経緯について説明があった。会員より次期繰越金についての質問があった。事務局長より次期繰越金と通帳残高との関係について説明があった。会長より予算書について理事会にて再検討する旨の説明があった。

(3) 第 21 回全国研究大会開催校について

和光大学において、2017 年 7 月 1 日（土）、2 日（日）で開催を予定している。

(4) 会員の入退会について（入退会者一覧 2015 年 6 月 29 日～2016 年 6 月 25 日）

2015 年 6 月 29 日会員数 238 名（正会員 197 名，法人会員 2 社，一般会員 1 名，海外会員 38 名）

2016 年 6 月 25 日会員数 243 名（正会員 195 名※，法人会員 2 社，一般会員 1 名，海外会員 45※）

※正会員から海外会員への区分変更 1 名の修正を含む

(5) その他

西澤信善先生が、学会への貢献に対して顧問に推薦され、承認された。

3. 2016 年度第 1 回議事録

期 日：2016 年 9 月 24 日（土）

時 間：13:00～14:00

場 所：大阪凌霜クラブセミナールーム（大阪府大阪市）

出席理事・会計監事・顧問：高橋義仁 葉山幸嗣 中井教雄 瀧田修一 川本明人 河知延
グエン・ドゥック・ラップ（委任状 13 通）

幹事（オブザーバー）：大島英雄 稲田圭祐 小林守

日本学術会議担当：西澤信善 村松潤一

WG：西口清勝

報告事項

(1) 会長より

2016 年度における本学会所信として、会員拡大の方向が示された。また、学会の研究の質を向上させるとの方向が示された。

(2) 本部事務局より

○ 予算と会計：20 周年記念事業と通常支出に関する報告・予算に関する課題について

本部事務局より、20周年記念事業費の予算が150万円計上されており、20周年記念冊子に支出として、およそ70万円程度かかることが示された。

また、通常の学会運営の支出としては、毎年およそ150万円かかり、本学会の現在資産は300万円であることから、来年度には繰越金がほとんどなくなる可能性が示された。このため、各委員会には、支出のさらなる削減が求められた。

(3) 各委員会より

以下の各委員会から、それぞれ報告がなされた。

○ 総務委員会報告

会員名簿が10月中旬に発送予定であること、JAFAMEの11月号がアップされる予定であることが報告された。また、会員名簿管理について独立した委員会があることが望ましいことが提案された。来年6月の選挙についての役割分担をするべきとの提案があった。入会届を新しいフォーマットにすることが承認された。

○ 研究委員会報告

日本貿易学会と合同で研究会を実施することが報告された。

○ 年報委員会報告

年報19号の査読が遅れているため、発行が遅くなることが報告された。20号について、査読規定と執筆要領について改訂がなされたことが報告され、承認された。改訂理由としては、執筆要領等にクレームが多いこと、フォーマットを統一すること、J-stageへの提出のためである。(執筆要領等の改訂については新執筆要領・査読規定・内規を参考にすること)

○ 国際交流委員会報告

海外視察研修は2017年3月にミャンマーを計画していることが報告された。

○ 20周年記念行事委員会報告

20周年記念冊子、WG「アジア市場経済学」の冊子、国際シンポジウムの開催が計画されていることが報告された。国際シンポジウムについては、自由論題などについても海外からの研究者を招聘する予定である。海外招聘について、費用は各大学の補助・科研費などの利用も考えることが示された。

○ アジア市場WG報告

詳細について、この後に開催されるWGで報告されることになった。

(4) その他

特になし。

議題

(1) J-STAGEに関する事項

年報のWEB化に関する諸問題について、本部で対応している旨が報告された。先に承認された査読規定などをJ-STAGEに提出することが報告された。J-STAGEの担当者については、別途年報委員と相談することとなった。

年報の発行媒体について、紙媒体とオンライン、双方の発行をどのようにするのか、またそれに伴う問題点について報告された。この問題について、引き続き議論が必要なことが確認された。

(2) 来年度全国研究大会趣意書について

アジア市場経済学の誕生と発展(趣意書案を参考)が示された。各理事より意見が出され、修正を前提として承認された。

(3) 会員の入退会

「IV. 入退会者一覧」を参照。

(4) その他

特になし。

Ⅲ. 2015 年度海外視察研修報告

アジア市場経済学会海外視察研修（2015 年度）報告

国際交流委員長 飯島高雄

2015 年度の海外視察研修は、2016 年 3 月 23～26 日の日程で中国河南省（開封市・鄭州市）を訪問した。日本からの参加者は、高橋義仁会長（専修大学）、西澤信善元会長（現顧問）（東亜大学）、下野寿子幹事（北九州市立大学）、飯島高雄（近畿大学）の 4 名であった。また、中国からはホストとなっていた李麦收会員（河南大学）、孫建国会員（河南大学）のほか、遼寧省大連市から張抗私会員（東北財形大学）、湖北省武漢市から李学婷会員（華中農業大学）に参加いただいた。

23 日は黄河水利職業技術学院（開封市）を訪問し国際交流についての意見交換を行った後、西澤元会長（現顧問）が河南大学において学生向けに講演を行った。24 日は河南大学でアジア市場経済学会・河南大学経済学部共催の国際シンポジウムが開催され、当学会からは高橋会長が研究報告を行った。25 日は鄭州市に移動し、河南工程学院において下野幹事が学生向けに講演を行った。この様子は、[河南工程学院 HP](#) で紹介されている。

また西澤元会長（現顧問）と飯島は正規日程の前となる 21 日に、かつて広島修道大学に留学していた王玉蘭会員が現在在籍している洛陽師範学院（洛陽市）を訪問し、国際交流についての意見交換を行った。この様子は、[洛陽師範学院 HP](#) で紹介されている。

今回の海外視察研修は日程の都合もあり、企業訪問がなく学術交流が中心となったが、過去の海外視察研修で知己を得て当学会に入会していただいた海外会員と再会し、交流をさらに深めることができた。当学会の海外ネットワークが広がりつつあることを実感した研修であった。



河南工程学院にて（2016 年 3 月 25 日、河南省鄭州市）

Ⅳ. 入退会者一覧

1. 会員の入退会が了承された。

2016 年 9 月 30 日 会員数会員 244（243）名

V. その他（部会情報等）

1. 東部部会研究報告会 報告

日時： 2015年5月16日（土） 14:30－16:30

場所： 専修大学神田校舎(7号館731教室)

報告内容：

第1報告 論 題：「韓国食品企業の中国市場進出戦略」

報告者：金炯中 氏（静岡産業大学）

第2報告 論 題：「メコン地域の発展動向－流通，物流，消費の視点から」

報告者：小林 守（専修大学）

以上